空間把握力を向上させるための指導技法の研究［1］（令和元年～）

産業デザイン科　冨ヶ原美和・安次嶺瑛子

1　はじめに

スペースデザインとは，空間における「人」と「モノ」との関係性をデザインすることであるが，空間を構成する「モノ」のボリューム感覚に基づくレイアウトを2Dの建築図面からイメージし，さらに「人」の動線と関連付けることは，学生にとって難易度の高い課題である．そこで，図面や簡易模型を用いた平面的アプローチと3DCADや3Dプリンターを用いた立体的アプローチの両方向から理解を深められる教材を検討し，空間把握力の更なる向上を目指す指導技法の研究を目的とする．

2　研究経過

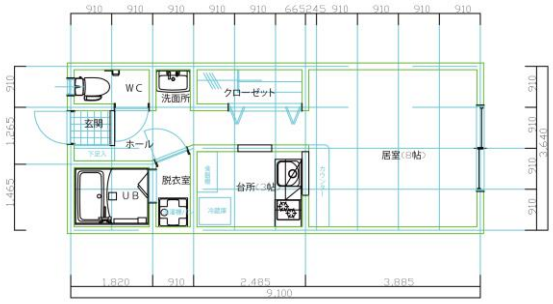
通常，スペースデザイン導入時のデザインワークは，エスキス作成⇒2D図面作成⇒簡易（スタディ）模型での検討⇒2D図面完成※1⇒プレゼン模型製作※2⇒プレゼンボード（または，企画書）の制作の流れであるが，※1の工程及び※2の工程での試行錯誤が難航し，タイムアウトになる学生が多い．そこで，今年度は，※1の工程で，活用を想定した基本図面から高さを伴うレイアウトを認知できる簡易模型キッドを作成し，このキッドを高校生を対象としたエンジニアセミナーの教材として提供し，その効果を検証した．

3　研究成果

エンジニセミナーのテーマを『ワンルームをデザインしよう！』と題し，限られた時間（150 分）のなかで，空間設計からデザイン提案（プレゼン）までを体験できるよう，簡易模型キッド及びプレゼンテーションに導くツールを準備し実施した指導教材を成果として次に記す．

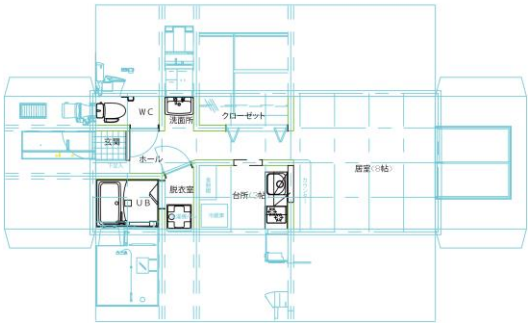
3．1　平面図案の検討

大学生の一人暮らしをモデルに，８帖ひと間のアパート１世帯の平面図案を作成した．この空間に家具等を配置し，ボリュームレイアウトを認識させる．



3．2　簡易模型組立図の制作

3．1で検討した平面図をベースに，ケント紙でのスタディ模型を組み立てるため，展開方式で４面の壁を付属させ組立図を制作する．



3．3　簡易模型レイアウト家具の制作

3．2の簡易模型の縮尺（S=1/50）に合わせて，インテリアエレメントをケント紙で制作し，レイアウトを楽しめる構成とした．

3．4　プレゼンシートの作成

受講者にインテリアデザインを提案するためのフォーマットを定めたプレゼンシートを用意し，セミナーの最後にひとり１分の発表をすることとした．

4　効果と今後の予定

今回のエンジニアセミナーでは，事前知識のない（であろう）高校生を対象に，簡易模型キッドを準備しインテリアデザインのシュミレーションを体験いただいた．「こんなに本格的な体験ができると思わなかった．」との感想をいただき，一定の成果を挙げられたと感じる．次年度は，短大校スペースデザイン選択の学生を対象としたプレゼン模型にも活用できるレベルの模型キッド（3Dプリンターでの作成）を制作する予定である．